

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれんど
(ユニット名)	はこねユニット
所在地 (県・市町名)	静岡県御殿場市川島田1084-1
記入者名 (管理者)	管理者: 池谷展洋 記入者: 吉田友子
記入日	平成 21年 2月 20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『その人らしく生きられる、そしてすべての人に支えられる生活空間』と掲げている。すべての人の中には、地域の人達にも支て頂きたい意味も含まれている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内に理念を掲示している。(リビング・玄関・職員室)個別支援。地域などの人々に支えられていける施設となっているよう臨んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月発行されているふれんど便りに理念を載せている。お便りは施設内や併設の老健へ掲示するとともに、家族や運営推進委員の方々や面会に来られた方に配布している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩へ出かけた時には、明るくあいさつを交している。また親しくしてくださっている方には、畑作業を手伝って頂いたりお花を頂いている。お茶をのんで頂きお話しし楽しい一時を過ごしている。	○ もっと多くの人達と関わりをもっていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏には、盆踊り大会へ参加させて頂いたが・・・他の事へは現在ほとんど交流が持てない。	○ 多少は行っているが、常に情報を共有できる場を設けて、地域活動へ積極的に入っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在実施ができていない。職員間で話し合い取り組んでいきたい課題である。	○	課題として、検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受ける意義は充分理解している。評価結果を職員に周知してもらい全体ミーティングを通してサービス改善に活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告内容で、意見を求め適正な助言・アドバイスをもらいより良いサービス提供を目指している。	○	今後施設内の実際をより理解して頂くため、参加型の行事等のお願いをしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との意見交換会で入居者状況を報告し、現状の情報提供を行い、連携に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し活用できるよう頑張っていきたい。	○	昨年も課題になっていたが、できていない。制度を理解できるよう勉強会を持っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当然のことながら、虐待はあってはならないと職員ひとりひとりが理解している。しかし、法について学ぶ機会が持たれていないので勉強していきたい。	○	上記共ですが、このような学ぶ研修会等があれば知りたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隣接している老健の勉強会に参加したり、また外部研修へ出た場合は報告会をもうけている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在まで、交流する機会を持つことができていない。	○ ネットサー久作りの発信をする機会をもうけ、サービスの質を向上させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	最近、業務外での集まりができていない。	○ チームワーク形成のためにも、工夫に取り組みストレスの軽減をはかりたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的や状況に応じ、ヒヤリングの機会を持ち指導を行い各自が向上心をもって働けるように努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者ひとりひとり細かく把握できるよう、担当制を導入している。本人の意見を尊重していくよう常に受けとめる努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接の機会を作り、家族の相談から利用に至るまで安心できる場を提供していけるよう努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を行い、アセスメントを行って課題を明らかにし、まず必要としている支援を見極めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり、その人の今まで生きてきた生活を知り、入居後安心した生活に入っていけるよう、マンツーマン対応している。除々に馴染んでいけるよう、家族職員ともに相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ひとつの家族ととらえている。個々の特技や趣味を生かし教わったりと、それぞれの活躍の場面作りへ働きかけ、日々楽しい生活となるよう支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、お茶を出し、入居者と共に会話が弾む行事には、家族参加型をもうけ、小旅行や年中行事を楽しみ、家族と一緒に支え合う関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の思いをそれぞれ受け入れて、両者が楽しく交流でき、より良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来てくれる方には、心地良く交流ができるよう場の提供をし、もてなしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	できる方ができない方への入居者同士のいたわり合いは心とんできている。団らんのひとときには、全員がそろい、またふじユニットの入居者も時には来られとりと楽しく交流し合い関わりあっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時々来居して頂いている。来居時は、リビングでお茶を出しお話しをしながら交流を皆で楽しんでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ひとりひとりの特徴を踏まえて話しの中では希望など聞き、把握に努めている。困難な場合には、アセスメントを参考に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	訪問調査を行い、アセスメントを行っている。入居後にも面会時などにその時の場面々において家族の方より、話を聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活の様子を観察し、記録を行っている。その中で、現在の状態を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プラン作成にあたり、本人・家族より要望を聞いている。そして毎週火・金のカンファレンスで意見やアイデアを出し合い、介護計画の作成をしている。作成したものは、家族へ説明し、同意をとっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月で評価、6ヶ月・認定更新時に見直しを行っている。しかし状態変更時には、随時見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスへは、注意事項・ケアプラン・カンファレンス記録・介護支援経過をはさんでいる。誰もが把握できるようになっている。日常生活の記録も毎月カルテへ記録しており、介護計画の見直しなどに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ひとりひとりの話しには、耳を傾け受容している。その都度の対応に心がけ、その人らしさを尊重し、人格を傷つけない態度を援助している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの来居があり、楽しいひとときを過ごしている。まだ力を入れていきたいが、運営推進会議を内容あるものとし、地域の方々との交流を目指していきたい。	○	まだまだ地域交流がきどうにのれていない現状である。運営推進会議の開催を通し、ひとつの前進とし、前向きに頑張りたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議を通じ、地域包括支援センターとの交流がここところ深まってきているので、今後更に前進し、連携をとっていききたい。	○	アドバイスや助言をもらいながら、努力していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして出席してもらっている。上記以外にも、ミーティングや話し合いの場をもうけ協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に合わせ受診は行なっている。隣接している病院があるため、協力機関としての支援がいつでも受けられている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接している老健の医師に指示や助言をもらっている。また病院もあり、受診時には待たなくても受診できるようにと、オンコール対応をもらっている。医師には相談をして、連携もとれている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している老健の看護師に指示や助言をもらっている。毎朝のミーティングで入居者の健康状態を報告している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	隣接の病院に入院した時には、お見舞いに行っている。病院より情報提供を頂き、早朝退院に向けての話し合いや協力を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族を含め、隣接している老健や病院と連携をとり、話し合いの場を、場面々でその都度もうけている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	老健の医師や看護師、かかりつけ医師と連携は常にとれている。アドバイスをもらっている。今後の変化に備えて、検討や準備も行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時には、退居時情報提供書を掲示するとともに、充分関係する担当者や連携をとって情報交換を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ひとりひとりの話しには、耳を傾け受容している。その都合対応に心がけ、その人らしさを尊重し、人格を傷つけない態度で接している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望時に対応がすぐできることは、その場でできない事でも階段を追って実現できるよう取り組んでいる。日常生活の中での選択については、本人の力に合わせ楽しみややりがいとなるよう配慮しながら支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくひとりひとりのペースに合わせ、日常生活を送れるよう支援しているが、時間帯により職員ペースに巻き込んでしまっている場面も見受けられる。	○ 職員ペースでの原因分析を行い、常に入居者ひとりひとりに合わせた、日々の暮らしを確実なものとして行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近隣にある理容店へ予約を入れ、散歩がてらにのんびりと出かけている。また家族が来られ、団らんのひとときに家族自身が散髪されている姿が微笑ましい。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者同士の話しや職員をも含めた話に花が咲く中、楽しみながら準備をしている。また、食事には皆がリビングに集まり、団らんの中温かい食事に満足しながら良い表情で楽しんでいる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒については、体調に配慮しながらお水で少し薄め晩酌時出している。たばこについては、喫煙場所をもうけている。ひとりひとりの好みを知り好きなものには、楽しめるよう配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介助が必要な方へは、排泄表のもと時間で誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自立されている方には、入りたい時間に合わせて準備している。介助が必要な方へは、入浴を促し納得の上入って頂いている。湯船につかると皆「気持ちいい」とうっとりされる姿に心和む。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活パターンを理解している。リビングの方が安心できる方へは、リビングで見守り、お部屋で休まれた方が良い方へは、声かけし休んで頂いている。ひとりひとりが心地よくウトウトされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中でひとりひとりの力を活かせるよう、できることを納得して頂いた上行っている。レクリエーションにも楽しめるよう、好きな事を行っている。気晴らしには、散歩やドライブにも出かけている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、本人管理している方もいる。小旅行では家族へお土産を買っている姿も見受けられる。日用品が無くなると買い物に行きたいと言われ、職員とともに楽しく買い物へ出かけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、施設周辺を散歩している。ドライブが好きな方は毎日日課で出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事では、季節に合わせて、小旅行に出かけている。昨年は伊豆の温泉・サファリパーク・マリンパーク・お花見・猿まわしを見に行きました。施設では見られない生き生きした姿も見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話をかけたいと言われる時には、希望に応じお話しして頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会された方には、笑顔であいさつを交わしている。楽しくお話しができるよう、場の提供をし、お茶を出し居心地良く過ごせるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	十分理解はしているが、ひやりはつが多く、対応もしてきたが本人の安全面を考え最低限で家族の同意のもと行っているのが現状だが、常に身体拘束をしないケアには職員全体が心がけている。	○	身体拘束については家族より同意のサインを頂いている。ケアカンファレンスで身体拘束がなくなるための話し合いも充分行っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵をかけていない。職員の見配り・気配り・声のかけ合いを実践している。夕方5時半には、玄関の戸締りをしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自分のユニットはもとより、隣のユニット職員とも充分連携をとり声のかけ合いをしながら、ひとつのグループホームとし、入居者の所在や安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	目隠しでカーテンを引いたり、安全のため包丁のあるところには、ロックをかけている。ひやりはつや気が付いた事へは、その都度検討し取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練は定期的に行っている。緊急時の対応は、マニュアル化し、職員室へ置いてあり、把握できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	隣接している老健の勉強会に参加し、緊急時の対応の勉強している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的実施しているが、確実なものではない、地域の人々の協力体制もまだまだ不十分なもので課題は大きい。	○	確実な体制を整えていく必要がある。地域の方への呼びかけも運営推進会議等で話し合っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	生活全体に起こり得るリスクについては、家族へ説明している。日頃より、ひやりはつを書いてもらい、十分なリスクへの対応策を話し合っている老健の中の安全管理委員会にも出席し話し合いの場をもうけている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタル測定を行い体調の変化に注意している。特変時には、併設の老健、医師やナースに連絡し、見て頂き、必要に応じ受診している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんは、薬チェック表へ管理し、ひとりひとりの内服が何であるか理解している。また、服用後は、飲用確認のためサインをしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方へは、受診時下剤を処方して頂いている。また、食事で消化の良い形態にし工夫している。歩ける方や身体を動かせる方には、散歩に出かけたり、レクリエーション時体操を行ったりと運動も促し行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で行えない方には、口腔ケアを行ったり、声かけしたりとその人のレベルに合わせて、支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態を提供している。水分も摂れるよう食事以外にAM/PMでお茶の時間ももうけている。お茶を飲まれない方には、野菜ジュース等で補っている。また時間によって摂取してくれるので、その時に水分補給して頂いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日朝そうじ時手すりなど次亜塩素酸水溶液で消毒している。また、インフルエンザ期には、室内には加湿器を設置している。面会者には、消毒を促しマスクの着用もして頂く。入浴時、足マットはその都度取替え1回1回そうじも行っている。その他、マニュアルも作成している。委員会にも参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布団やスポンジ等は、毎日ハイターに付け消毒を行っている。食器類は乾燥機を使用している。日々の食材は、毎日入居者と買い物に出かけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には、畑がありデイの利用者と菜園を楽しむ季節もある。玄関に出た所にいすがあり天気の良い日には、入居者同士の会話も弾んでいる。良い交流の場となっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者が作った作品を掲示している。暖かい日には窓を開け心地良い陽射しと風を感じている。リビングは楽しい会話の声が弾んでいる。カレンダーは毎月手作りで入居者とともに作り上げている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他ソファもあり、TVを見る時や新聞を読む時、うたた寝をする時など、自然と座っている。皆が集まるおやつ時や食事時は、お話しがとびかっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひとりひとりが自分に必要なもの、大切にしているものを持ち込まれ、それぞれが心地よく落ち着く空間を作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝のそうじ時や天気の良い日に窓を開け換気をしている。冬場のは、加湿器を設置し乾燥を防いでいる。冷暖房の湿度調整にも常に気をつかいこまめに行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には、家庭用運動器具を置き、自らがやりたい時に運動不足の解消をしている。また、施設内には手すりがあり、バリアフリー化させた環境となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには分かりやすく「トイレ」と表示している。カレンダーは毎月手作りの季節感ある見やすいものを作成し、日付の確認をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	富士山が望める南向きに物干し台を置き干している。また春～夏場、西側に畑がありあすなろデイの利用者や近所の方にお手伝いを頂きながら、菜園を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・週2回、STによる音楽療法。毎月の行事活動。毎日のドライブなど余暇時間にレクリエーションを多く取り入れ、入居者同士の交流を深めている。
- ・日々の認知症ケアの活動内容を併設する老健の勉強会で、発表を行ったり、地域の発表会の機会にも参加し取り組んでいる。